へ13
1178
114

へ13
1178
113

白怒飛物語

五拾七編上

へ13
1178
113

特
1178
113

水の二なし水る則ハ平こなして押ふ堅し
波うつ則ハ逆怒當るふ痛し忠孝ハ二ハ太平の
世の忠臣と冨貴の家乃孝子とハ克盡せども平こうり
然うして最難し君ふ代りて戦死し不倶戴天の仇を復せふ磯うつ
波の奇態を見せ胸を冷して痛むべし此白縫の原傳ふ夜須河某の
幼少兄弟父讐鷲掴權太こ云悪老漢を討餘譚あり板元これを書
かいていうとの好あれば志邦ゞ酒筒感得の話ハ十七腹稿成られと澳津
島の波高きふ似ぜ其趣ハ平ありや淀川の水ハ堰きて哭ぶ悲しく
件少くねば久しく出さぬ愁歎場を且前はて碧巖和尚の落草の
換子とハ養老孝子ハ六十編のメトふ延して竜川ゞ娘婦の因とせんさて
安川を岡村ふ托せるハ巻中の人物のゞう立消あ世とこうなり

慶應四辰季春

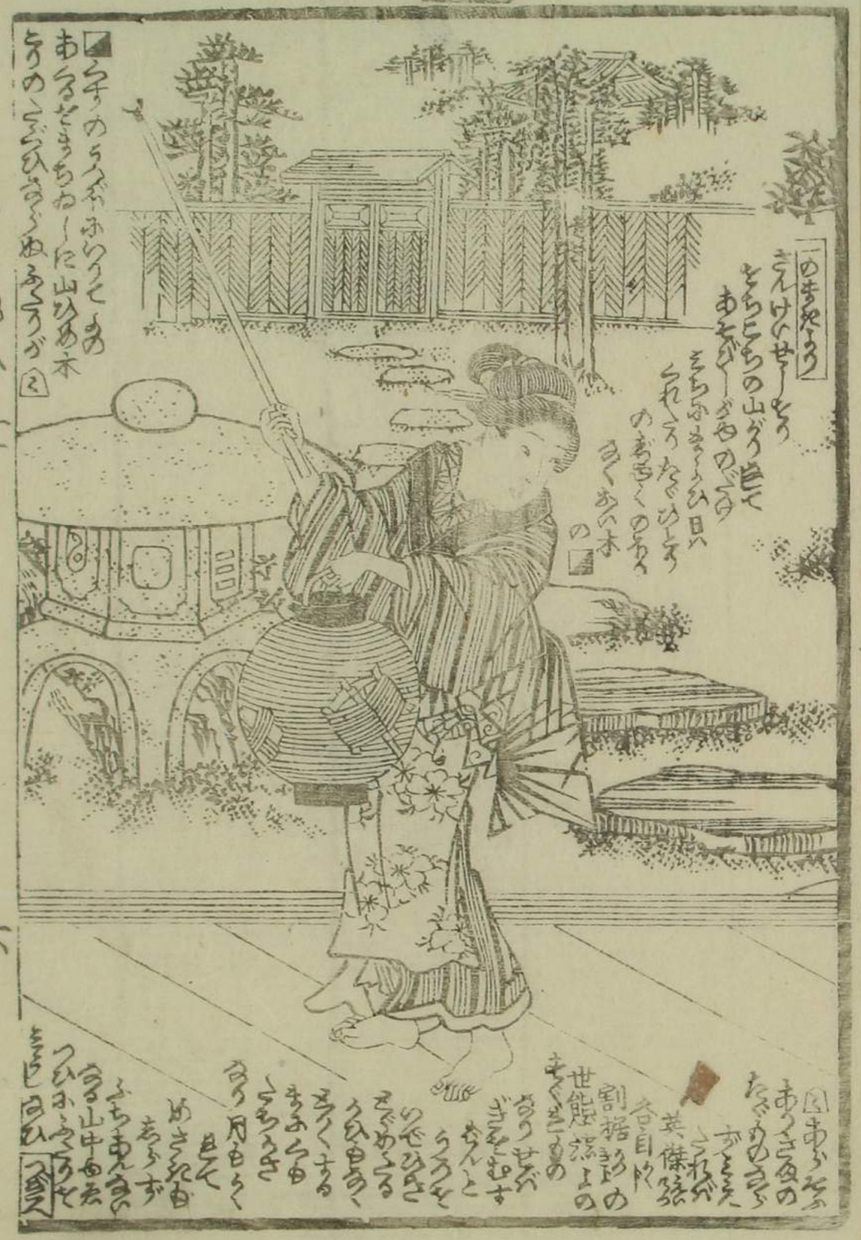
柳亭種彦記

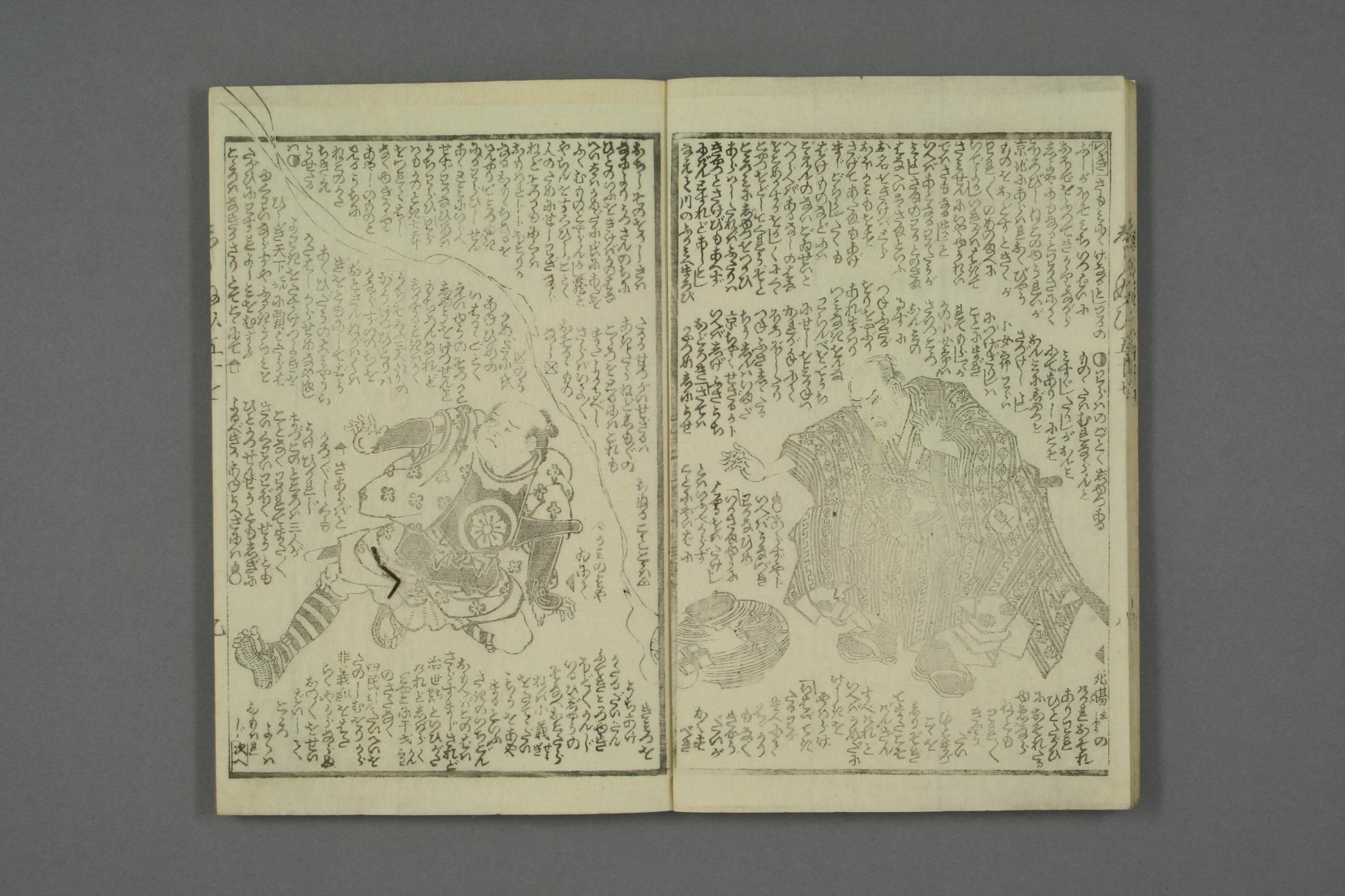
鰐塚軒大夫

彫管壌
本領先者

若

天





柳亭種彦作
恵齋芳幾画

太平記英勇傳

中錦山々亭有人記
百番續 恵齋芳幾画

志ゝぬひ彈

西国四編の柳亭種彦作
六十編ヲ一恵齋芳幾画

西面織花田物語

仮編ヨリ同
山路迷
同

假名淫八犬伝

主夢伊右衛門文雄
三十五編ヲ朝書花笠芳重

古今俳優似顔大全

故豊國翁筆
天錦白三番續

へ13
1178
114

特
へ13
1178
114

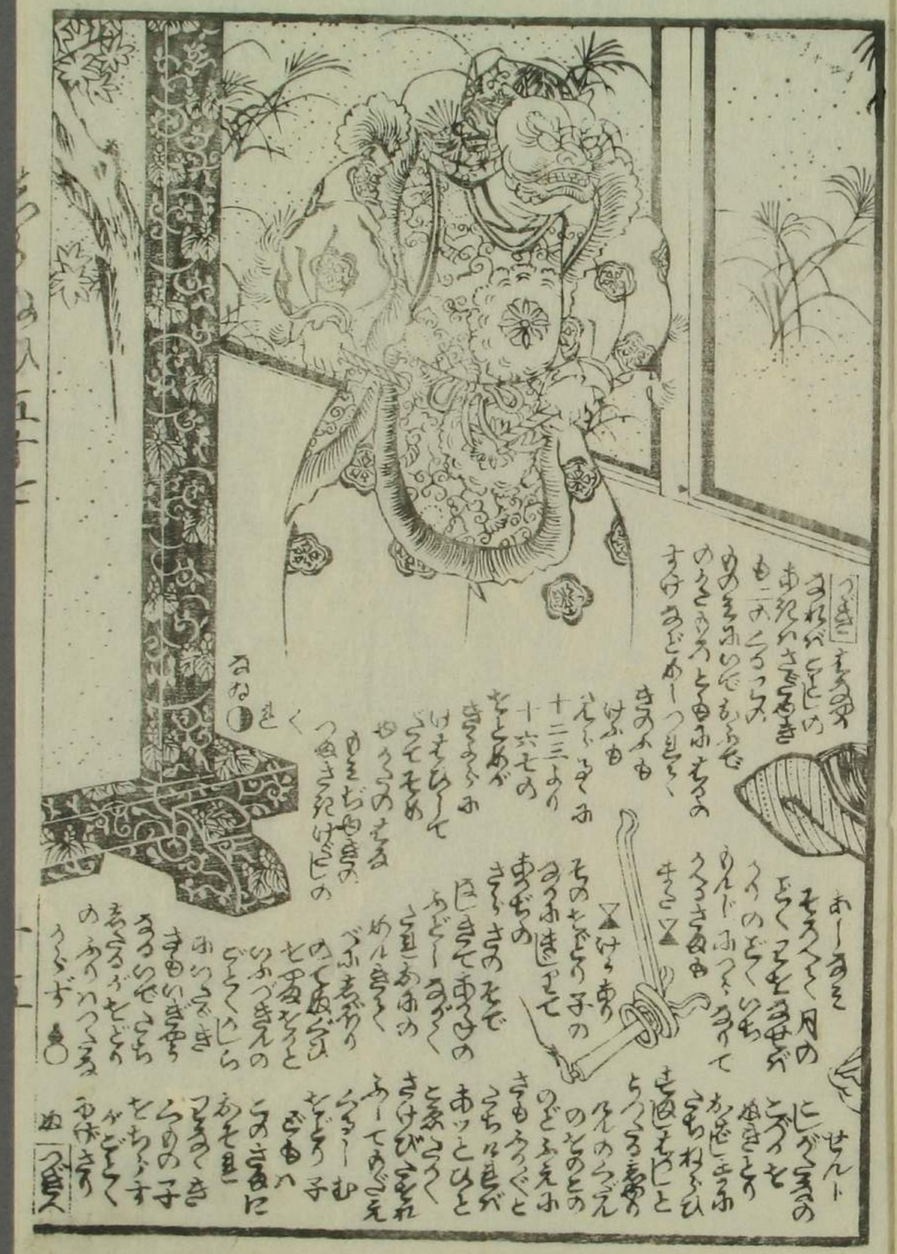
白縫譚

五拾七編

下之巻

猛彦作　芳幾画

上のつゞき　三月廿八の
夜させいのよく山妻行
ゆのあまりちくふ未のび
いりハ女弟をせつぶ巳
士民ゑんをきづはうぐ
ぶのんさくりきてくぶ
うちとくぐんとうあく
ひそりとをもらくうり
くふひきやくトこの
ひとをろみバ
をろあのん
さいのさひふーそ
めふまあらつひけき
京ちやくとりくひの
とくバこれまぶかど
ぶふくーまひー
吉ときといあひとの
さいらといひくく
きくふードあくん
らんとのとくあく
ありくるうさのせん
ぎありをあとまひーふ
ぎあるとくひ」いハ女弟が
えそくるひあく「あひくあくとと
「いちドふあくるとあひけのくるとひ」
□とくゆて
いくるど
みなひて
いくるとる
うひあとと
いよくあゆん
ぶくくをあゆせ
とくぐくをとくく子
軍議ぎいあるく
ぎあ山あくさぐむ
ベーをくあのん
こもさのりあひ
ねびきあひくく七弟
あくどとくるひあい
ぎくりちげきー
「このくくいあのくく、
くるぎあくゆくく
九州へ昼夜ひ
ひどくるひやうんそく
がーんのくふくく
よくくあくゆのくと」ふ
つけくれ子くとくあ武
すぐくくとやくーあひ
ゆそあとくりくぐ
らんまいくあを
つぐくるをくあのん
「キづひくく
きくあのくを」



巨勢相覽等

春
刑

奥

奥村信名

種彦作
芳幾画

朝霧楼芳幾画

浪華黄金鯱

三編

細川如雲
山々亭有人
恵斎芳幾
合作

江戸深川佐賀町
廣圖版章助梓

純女草紙四編